

来年秋のまちびらきに向けた準備が進行中!



まちをまるごと再整備する「南町田拠点創出まちづくりプロジェクト」が東急電鉄(株)と協働で進行中。8月には、中央部のパークライフ・サイトに、「スヌーピーミュージアム」や「まちライブラリー」、「子どもクラブ(児童館)」、カフェを設置することが決まりました。また、2019年度中に「南町田駅」を「南町田グランベリーパーク駅」に改称することや、休日だけでなく平日も急行電車が停車することが決まりました。(本紙4月15日号・9月1日号参照)

問 都市政策課 ☎724・4248

公共施設再編に向けた取り組みが本格始動!

学校など多くの公共施設は老朽化し、建て替え時期が迫っていますが、人口や財政状況を見通すと、すべての施設は残せません。そのような状況においても、必要なサービスや機能を維持するため、6月に「みんなで描こう より良いかたち 町田市公共施設再編計画」を策定しました。今後も皆さんと対話しながら、公共施設・公共空間の「より良いかたち」の実現を目指します。(本紙「みんなで作る未来のまち」③～⑩、公共施設マネジメント情報紙「ぷらっと」vol.1～2参照)

問 企画政策課 ☎724・2103



高齢者が安心して暮らせるまちを目指して!

アクティブシニア(50歳以上の元気な方)の介護施設などへの就労支援は、地域の支え合いの輪を広げる取り組みの一つ。介護の担い手として活躍していただくため、安心して働けるようサポートしています。そのほか、認知症の方やその家族などが交流するDカフェの開催等、高齢者が健やかで自分らしさを感じられるまちを目指し、4月から第7期町田市介護保険事業計画をスタートしました。

問 いきいき総務課 ☎724・2916



(本紙6月15日号参照)

災害が起きる前に安全対策を!

土砂災害の危険がある場所や避難施設を確認できる、土砂災害ハザードマップを今年も作成しています。マップは町田市ホームページでご覧いただけます。また、本紙でも「今からできる大雨対策」や、大阪府北部を震源とする地震の教訓を生かした「子どもの視点で考える安全対策」を紹介しました。日ごろから災害時の家族間の連絡方法や避難施設を確認しておきましょう。(本紙5月15日号・9月1日号・9月15日号参照)

市HP [もしものために備えよう](#) [検索](#)
問 防災課 ☎724・3218



遊べる、学べる、子どもの憩いの場が増えています!

0～18歳の子どもがのびのびと遊べる木曽子どもクラブ「きそっち」が、1月にオープン。また、放課後の教室や校庭で自由に遊べ、宿題等の学習活動や体験活動ができる新たな「まちとも」を、今年は8校増やしました。2021年度までに全校で実施することを目指します。学校や地域ぐるみで子どもが、安心して楽しく過ごせる居場所づくりを行っています。(本紙1月1日号・7月1日号参照)

問 児童青少年課 ☎724・4097



学習指導要領の先行実施、すべての市立小学校で英語教育を充実!

英語によるコミュニケーション能力を育てる取り組みを充実。休み時間や給食の時間など授業以外にも、外国人と英語で話せる環境を整えたほか、小学2～5年生の希望者を対象に無料で放課後英語教室を開いています。また、2020年度までに大型提示装置(=写真)とタブレット端末をすべての小・中学校に整備し、ICT(情報通信技術)環境の充実にも力を入れていきます。(本紙7月1日号参照、まちテレ「えいごのまちだ」12月1日～12月31日放送)

問 指導課 ☎724・2867



東京2020オリンピック・パラリンピック、ラグビーワールドカップ2019™ 2つの国際大会に向けて機運醸成中!



東京2020オリンピック・パラリンピックでは市がホストタウンとなっている南アフリカ代表のほか、インドネシア代表と中国代表のキャンプ地に、ラグビーワールドカップ2019™でもナミビア代表のキャンプ地になることが決まりました。東京2020オリンピック競技大会の自転車競技ロードレースでは市内約3.4kmを通過することが決定しました。また、子どもたちがアスリートと交流し、競技に触れる機会を設けるため、市内の小中学校でパラバドミントン体験会等を行っています(=写真)。(本紙9月1日号別刷特集、12月1日号参照)

問 オリンピック・パラリンピック等国際大会推進課 ☎724・4442

あなたの夢をみんなで実現「まちだ〇ごと大作戦18-20」がスタート!

市制施行60周年からラグビーワールドカップ2019™、東京2020オリンピック・パラリンピックへと続く3年間で、市民活動・地域活動を盛り上げて、市の魅力や活力を高める取り組みです。自らやってみたく考える提案を募集中。子どもの未来を応援したい、おいしいものを食べてもらいたい、公園の新たな利活用で賑わいをつくりたい、アートでまちを活性化したい等の市民の夢が実現しています。詳細は、まちだ〇ごと大作戦実行委員会ホームページをご覧ください。(本紙2月1日号、「まちだ〇ごと大作戦レポート」vol.1～2参照)

問 同実行委員会事務局(広報課まちだ〇ごと大作戦担当) ☎724・4084

